

51 佐賀県景気動向指数

令和元年11月の動向

- ◆ 先行指数 **50.0%** …… 2か月連続で50%を上回った後、50%となった。
- ◆ 一致指数 **85.7%** …… 5か月振りに50%を上回った。
- ◆ 遅行指数 **33.3%** …… 4か月連続で50%を下回った。

表1 変化方向表

採用系列	H30.11月	12月	H31.1月	2月	3月	4月	R1.5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
(先行系列)													
1 所定外労働時間数	-	-	-	-	-	+	0	-	-	-	+	+	+
2 新規求人数	+	+	-	+	-	-	+	+	+	-	+	-	+
3 鉱工業生産指数 (生産財)	-	+	-	-	+	-	-	-	-	-	+	+	+
4 乗用車新車登録台数	+	+	-	-	-	+	+	+	+	0	+	-	-
5 鉱工業在庫率 (生産財・逆)	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	-
6 新設住宅着工戸数	-	-	+	-	+	+	-	-	-	+	-	+	-
7 企業倒産件数 (逆)	+	-	0	-	+	-	+	+	0	-	-	0	-
8 不渡手形金額 (逆)	0	0	-	-	0	+	+	-	-	0	-	+	-
9 銀行貸出残高 ()	-	+	0	0	-	-	-	-	-	0	+	+	+
10 手形交換金額 ()	-	-	+	+	+	-	-	+	+	-	+	-	+
拡張本数	3.5	4.5	3.0	3.5	4.5	5.0	4.5	4.0	3.5	2.5	6.0	6.5	5.0
採用指標数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
先行指数	35.0	45.0	30.0	35.0	45.0	50.0	45.0	40.0	35.0	25.0	60.0	65.0	50.0
(一致系列)													
1 有効求人倍率 (就業地別)	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	+	+	-
2 就職率	+	+	-	-	-	+	-	+	0	-	-	-	+
3 鉱工業生産指数 (総合)	-	+	-	+	+	-	-	-	+	-	-	-	+
4 鉱工業出荷指数 (総合)	-	+	-	+	-	0	-	-	-	-	-	-	+
5 大型店売上高 ()	-	-	-	+	+	+	+	+	-	-	+	+	+
6 着工建築物床面積 (産業用)	+	-	-	-	+	+	-	+	-	+	-	+	+
7 輸入総額 (唐津港 + 伊万里港)	+	-	-	-	+	+	+	+	+	-	+	-	+
拡張本数	3.0	4.0	1.0	4.0	3.0	4.5	2.0	5.0	2.5	2.0	3.0	3.0	6.0
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
一致指数	42.9	57.1	14.3	57.1	42.9	64.3	26.6	71.4	35.7	28.6	42.9	42.9	85.7
(遅行系列)													
1 常用雇用指数	0	+	+	0	-	+	+	-	-	-	-	-	-
2 雇用保険受給実人員 (逆)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-
3 陶磁器生産重量	-	-	-	-	+	+	+	-	+	-	+	-	+
4 消費者物価指数 ()	-	-	-	-	-	0	+	0	-	-	0	+	+
5 鉱工業在庫指数 (総合)	+	+	+	-	+	-	-	+	+	+	-	-	-
6 銀行預貸率	0	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
拡張本数	2.0	3.0	3.0	1.5	2.0	3.5	4.0	2.5	3.0	2.0	1.5	1.0	2.0
採用指標数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
遅行指数	33.3	50.0	50.0	25.0	33.3	58.3	66.7	41.7	50.0	33.3	25.0	16.7	33.3

(逆)は逆サイクルを示す。

(☆)は対前年同月比で、その他はセンサス局法により季節調整を行っている。

(注)・センサス局法X-12-ARIMAで季節調整をしている指標についてはデータを追加するたびに季節調整要因が変更されるため
 遡及して数値が変わり変化方向が変わることがあります。

- ・鉱工業指数など一部の指標は補正を行うことから、同様に遡及して数値が変わることがあります。
- ・有効求人倍率は、H26年5月分公表から遡及して、「一般職業紹介状況」(厚生労働省)より、「就業地別(季節調整値)」を使用しています。
- ・「常用雇用指数」は毎月勤労統計調査の調査対象事業所の入れ替えに伴う指数の改定により、遡及して数値を変えているため、一部変化方向が変わっています。

景気動向指数(DI: Diffusion Index)の見方

- ★ DIは、景気の動きを各種の指標によって総合的にとらえようとするもので、各系列で採用指標のうち3か月前と比較して増加している系列(+)が何%を占めているかを表したものです。
 各系列において、指数の計算方法は次式によります。

$$\text{指数} = (\text{「+」の指標数} + 0.5 \times \text{「0」の指標数}) \div \text{当該採用指標数} \times 100$$
- ★ DIには3つの指標があり、それぞれ下記のような特徴があります。
 「先行指数」 …… 景気に対し先行して動き、景気の先行きを予測する。
 「一致指数」 …… 景気に対しほぼ一致して動き、景気の状態を示す。
 「遅行指数」 …… 景気に対し遅れて動き、景気の動きを確認する。
- ★ 一致指数が基調的に50%を上回って推移している時期は景気拡張期、
 50%を下回って推移している時期は景気後退期と判断します。
 なお、値そのものの大きさは景気変動の大きさないし振幅を示すものではありません。